

本展示の構成と見どころ

セクション(1)

プロジェクト展示

所蔵資料から特定の建築プロジェクトに着目し、当該プロジェクトに係る建築資料を一覧に集め、その全容を紹介する資料展示です。代表的な図面だけでは把握することが困難な設計の方法論や建築家たちの挑戦の軌跡を、当館が保有する数々の資料を通して幅広く紹介します。

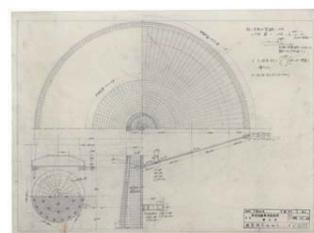
出光興産給油所関連施設 (坂倉準三資料より)

ガソリンスタンドに要求される機能と造形のバランスを考慮しながら構造家と協働し、様々な構造形式に挑戦

1960年頃、坂倉準三建築研究所は出光興産の給油所、出張所、立体駐車場といった関連施設の設計を数多く手掛けました。「皆それぞれ、独自のものにしてほしい」との施主側の希望に沿うよう設計が進められたようです。ガソリンスタンドに要求される機能と造形のバランスを考慮しながら構造家と協働し、様々な構造形式にも挑戦していたことがわかる資料群です。ガソリンスタンドの覆屋で試みられた構造形式は、年代の近い、坂倉の他の建築作品にも用いられました。



松江給油所 透視図 | 図面 | - | - |
鉛筆 インク、トレーシングペーパー | 399×546



稲沢給油所 構造図 | 図面 | 1:50 | 1960年11月25日 |
鉛筆 インク、トレーシングペーパー | 421×569

ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館 (吉阪隆正+U研究室資料より)

吉阪隆正研究室が草創期に取り組んだ代表的プロジェクト
最初期の計画案から竣工後のテント増築案まで全容を展示

ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館は、イタリア・ヴェネツィア本島に設けられた国際美術展示会場の日本パビリオンで、吉阪隆正研究室が草創期に取り組んだ代表作のひとつです。当館が所蔵する資料には、建築形態の異なる最初期の設計案が複数あり、実施設計に向けた検討過程の図面や現場でのスケッチの他、竣工後のテント増築案なども多数含まれており、その設計プロセスを追うことができます。



外観スケッチ | スケッチブック | - | - |
鉛筆、トレーシングペーパー | 207×300



外観スケッチ | スケッチブック | - | - |
クレヨン、トレーシングペーパー | 207×300

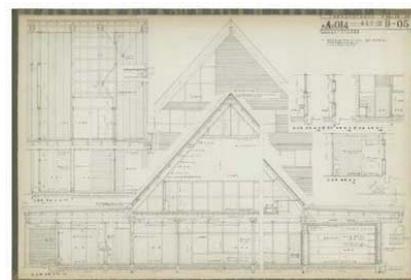


横断面図 | 図面 | 1:50 | 1957年3月1日 |
鉛筆、トレーシングペーパー フィルム | 516×836

農協事務所建築 (大高正人資料より)

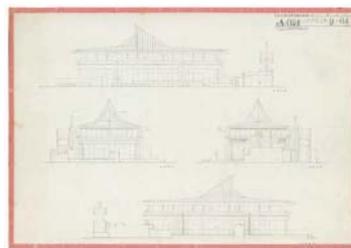
大高正人が掲げた「PAU (Prefabrication, Art & Architecture, Urbanism)」の統合を目指す設計の理念とその実践

大高正人は、全国の農業協同組合を農村社会建設の核とすれば日本列島の大半が豊かな社会になると考えて、1960年代に「農協建築研究会 (NKK)」を組織しました。仲間の建築家と



片岡農業協同組合 矩計図 詳細図 | 図面 | 1:30 | 1962年10月25日 |
鉛筆、トレーシングペーパー | 804×550

もに各地の農協事務所の新築や改築の相談などに応じ、自らも全国に8件の農協建築を計画しました。当館が所蔵する7件の農協事務所建築にまつわる資料を通して、彼の掲げた「PAU (Prefabrication, Art & Architecture, Urbanism)」の統合を目指す設計の理念とその実践の軌跡を追うことができます。



山内農業協同組合会館 立面図 | 図面 | 1:100 | - | 鉛筆、トレーシングペーパー | 830×580

セクション(2)

新規収蔵資料展示

文化庁 国立近現代建築資料館が新たに収蔵した建築資料を紹介します。今回初めて展示される貴重な建築資料の数々です。

渡辺仁 資料

渡辺仁は、ホテル・ニューグランド (横浜)、銀座和光ビル (旧服部時計店)、第一生命保険相互会社本館、原美術館 (旧原邦造邸)、東京国立博物館本館 (旧東京帝室博物館、重要文化財) などの設計者であり、数々の設計競技で名を上げた大正・昭和戦前期を代表する建築家です。残存する資料は渡辺の建築活動を断片的に伝えるものですが、学生時代から戦後かけての建築作品の一部図面が残されています。また、スケッチブックからは卓越した画力がうかがわれ、渡辺が本格的に建築教育を受けるまでの様々な体験やその時代背景を伝える資料となっています。



Stained Glass for Boy's Day Room (学生時代の設計課題) | 水彩画 | 1:10 | 1911年 | 色鉛筆 インク 水彩、紙 | 297×470



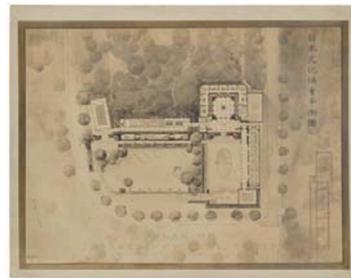
T定規 | 道具 | - | 木版 釘 | 834×288

平田重雄 資料

平田重雄は、松田軍平とパートナーシップを組んで松田平田設計事務所を創設し、我が国における組織的な建築設計事務所の先駆けとなった人物です。本資料群は、平田の自邸 (Villa Le Mais) に保管されていたもので、コーネル大学留学時代に描いた西洋建築の細密なスケッチ画、学生時代の設計課題の写し、箱根仙石原の別荘、平田自邸などの図面に加え、原稿、スライド写真、音声テープなどで構成されています。平田重雄の業績や人物像を伝える資料となっています。



西洋建築の細密なスケッチ画 | スケッチ | - | - | インク 鉛筆、紙



日本文化協会 平面図 (学生時代の設計課題) | 写真

セクション(3)

デジタル資料展示

タッチパネル端末で、一部展示資料のデジタル画像が御覧いただけます。スケッチブックや原稿など、実物展示のページ以外もデジタル画像で御覧になれます。